

今号のラインナップ：春期ウリマル開講式 / 在日同胞南韓縦走自転車ツアー / 駐日韓国大使館の不当で露骨な干渉に抗議する！ / 『歴史の意志を实践する』 / 情勢 NEWS / 編集後記

春期ウリマル開講式 各地で開催！！！！

4月25日、恒例の春期ウリマル開講式を各地で開催しました。(東京本部は4月21日)

開講式に向け、全国で熱心な宣伝活動をおこない、新しい仲間や、懐かしい仲間を迎え入れました。また、各本部の特色を生かしながら、模擬授業やオリエンテーション、交流会などを通して、参加者全員が楽しみながらウリマルに触れて大いに盛り上がりました。

東京本部では、3支部合同で開催し、多くの青年が参加しました。模擬授業やゲーム大会、そして各支部のウリマル寸劇を披露して大いに盛り上がりました。また、韓国語の大切さを伝え、韓青ウリマル検定テストでの合格者の表彰式をするなど、参加者全員が、今後のウリマル学習に意欲が高まりました。

大阪府本部では本部事務所で開講式を開催し、和気あいあいと楽しく進行することができました。模擬授業では、基本表現である数字を使った会話練習を実施しました。ウリマルを学習するのが初めての新規生も熱心に学習し、果敢にウリマルを使っていました。開講式後はそのまま本部で交流会をおこない、夜が更けるまで楽しく交流しました。

兵庫県本部では、模擬授業で実践的なウリマル授業を行いました。ソウルの地図を広げ、空港からの移動やタクシーの乗り降り、買い物の仕方など、シチュエーションに合わせた会話練習を活発に行い、楽しく、ウリマル会話を学びました。今期のウリマル学習への高い意欲が反映された開講式といえるでしょう。

これから始まる上半期期間のウリマル教室でさら



に学び、ともに成長して「民族的に生きる」ことの素晴らしさを共有していこうと約束しながら、全国の各本部の春期ウリマル開講式は終わりました。

大使館からの不当な干渉(後述)にも負けず、私たちが在日同胞青年として「民族的に生きる」ために、「韓国語」をウリマル(私たちの言葉)として学ぶということを、改めて強く確認することができた開講式となりました。

そして、韓青という空間が、日本社会から受けている差別と同化の緊張感から解き放たれる貴重な民族的空間であるということ、同胞青年が、どのだれからも教えられなかった民族の言葉や歴史を学ぶ民族学校であるということに、強い誇りを一段と持つようになりました。

韓青ウリマル教室は各本部で毎週水曜日に開催しております。

統一祈願・四大河川工事検証 在日同胞南韓縦走自転車ツアー



李明博政権の代表的な悪政である四大河川事業の一環として、自転車道路が建設されています。この自転車道を利用して本土南端の釜山から北限の非武装地帯の都羅山まで自転車で縦走する「統一祈願・四大河川工事検証 在日同胞南韓縦走自転車ツアー」が開催されました。

在日同胞の統一に対する熱い思いを南の同胞に伝達するとともに、この四大河川工事が環境に与えている影響を検証することを目的として開催されたこの企画に韓青から二名の盟員が参加しました。



4月28日から5月4日までの7日間、総走行距離600km以上！の今回の自転車ツアーに参加したのは、中央本部の金承民副委員長（兼神奈川県本部委員長）と東京本部足立支部のキムサエ宣伝部長の二人。二人とも本格的に自転車に乗るのは初めてでしたが、自らの力で祖国を縦断することで祖国・民族を体感し、各地で在日同胞年としての統一への思いを発露したいという熱い思いで全行程を走り抜けました。

コースは、釜山から最も長い洛東江自転車道を北上して、聞慶峠のセジェ自転車道を越えて、南漢江自動車道を通ってソウルへ入り、ソウルからは統一路（国道一号線）を北上し臨津江駅まで、途中アクシデントがあり一部電車に乗らざるを得ませんでした。約500kmを自転車で走りました。残念ながら非武装地帯を自転車で走るのは許可が下りなかったのですが、臨津江駅から京義線に自転車とともに乗車して最終地点の都羅山駅まで行き、分断の最前線まで自らの力で到達しました。

分断線を目の前にして、韓国縦走を完走した充実感とともに、北側へと続く道が閉ざされている現状に胸が痛みます。一日も早く南北の自主的平和統一を成し遂げて、板門店を越えて白頭山までの真の祖国縦走を行なうことを参加した全員が誓い合いました。いつの日か「行こう北へ、来たれ南へ、会おう板門店で！」というスローガンで、海外同胞が声をかけて南北合同自転車ツアーをやろう！そんな話も盛り上がりました。

また、私たちが祖国、韓国を訪れる時はどうしてもソウル中心になってしまいがちですが、今回は様々な地方を訪れることができました。期せずして故郷の村を通過して自らのルーツに思いを馳せ、地域の人びとの情に助けられ民族の温かさを知り、本当に美しい山河に抱かれて祖国の誇らしさを感じました。在日同胞が祖国を知り、向き合える、このような機会を作る必要性和可能性を感じました。



韓国語教室

「ムグンファ」

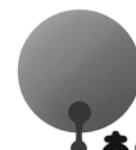
見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵（キム・イヘ）

080-6510-1973

韓国語教材専門インターネット書店

ハングルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

あの日、私は祖国を見た

キム・サエ

私の描く“祖国”と言う名のユートピア。

どこか懐かしくてとても美しい風景と、在日同胞の私たちを「日本で苦勞したでしょう」と温かく迎えてくれる人たちがいる場所。

それが、私の心の中にある“祖国”



私は何度か韓国に行った。でもそこは“祖国”ではなかった。

東京と変わらない騒然としたソウル。在日同胞の存在すら知らず、日本語訛りの韓国語を笑う韓国人…韓国は私を温かく受け入れてはくれなかった。

私は“韓国人”に近づきたくて韓国ドラマの言葉をまねた。

今回、釜山からソウルまでの自転車の旅で慶尚北道を走った時、私は生まれて初めて太白山脈を見た。南北をまたぎ延々と続く山脈の麓の農村地帯をただひたすら自転車で走った。

鶏が鳴き犬が吠え、人々が手伝い合いながら畑仕事をしていた。どこか懐かしい風景。

私が生まれる前に亡くなった母方の祖父は慶尚北道の出身だった。

完璧な日本語を話したというハラボジ。家でも決して朝鮮語は話さなかったハラボジ。でも「朝鮮人の心は決して忘れるな」とオモニに話したという私のハラボジ。

そのハラボジもこの太白山脈を見たのだろうか。

この風景をハラボジは日本の地で恋焦がれたのだろうか。

昼食で入った食堂のアジュンマは私たちが日本から来たということ「日本で住むのは大変でしょう、もっとごはんを食べなさい」と慶尚道訛りで言った。

慶尚道の方言は私が必死で真似る韓国語とはずいぶん違っていた。

でもすごく温かいウリマルだった。

ハラボジが話したウリマルは、アジュンマと同じ慶尚道訛りだったんだらうか。



自転車で走り続けると川辺の景色が広がった。

あまりにきれいで溜息が出た。

私たちの先祖はこの地に生まれ、何千年にも渡って民族の歴史を刻んできた。

世界が私たちの祖国に線を引く前からずっとこの山も川もその歴史を見つめ、今なお見つめ続けている。

それを思うと心が震えた。

“私の祖国はこんなにも美しい”

その事実が“朝鮮人の誇り”となって心の底から沸き上がった。

どこか懐かしい風景。私たちを温かく迎えてくれる人々。言葉をなくす程美しい景色…

あの日、私は祖国を見た。

日本の地で祖国を恋い、決して朝鮮人としての誇りを忘れる事なく逝ったハラボジの魂は、私と共に再び祖国に帰ってきた。

イムジン川まで自転車で走った。

長々と流れる川は美しいのに、長く流れる分断の歴史は悲しい。

川は止まる事なく流れるのに、私たちは38度線の前で立ち止まる。

ユートピアはまだ見つからない。私のユートピアは一つの祖国。

私は必ずそこへたどり着いてみせる。そう強く思った。



《 在日同胞青年に民族性は必要ないのか！ 》

駐日韓国大使館の不当で 露骨な干渉に抗議する！

4月17日、駐日韓国大使館は「“反国家団体”の不純な動きに注意」という「お知らせ」を大使館のホームページに、そして在日本大韓民国民団（民団）のホームページにも掲載し、韓青の主催する韓国語教室への不参加を訴えました。

韓青はこうした当局の不当で露骨な干渉に断固抗議するとともに、韓国当局の謝罪と取り消しを求めて4月20日付で抗議文を発表し、同日、韓国大使館に配達証明で発送しました。また国内のニュースサイト『統一ニュース』にも関連記事が掲載されました。以下、抗議文を掲載します。

抗議文

駐日韓国大使館 ㄱ

さる4月17日、駐日韓国大使館は「『反国家団体』の不純な動きに注意を」と題した「呼びかけ文」を通じて、在日韓国青年同盟（韓青）の「韓国語講座」には参加しないよう訴え、在日本大韓民国民団（民団）のホームページで公表した。

これは、李明博政権の反民族的な性格を自ら満天下にさらしたものである。

韓青は結成以来、今日に至るまで、同化・帰化や日本社会での差別に悩みしんぎんする在日同胞青年を対象に、母国語の習得を通じて、在日同胞青年が民族的な自覚に目覚め、より民族的に、より人間らしく生きていくことを促進している。

本来ならば、こうした事業は韓国政府が積極的に推進すべきことである。ところが、歴代独裁政権の棄民の思想に基づく在日同胞政策のため、民族教育は皆無に等しいといわざるをえない実情にある。

韓青が主宰する「韓国語講座」は、在日同胞青年同士が集い、同胞青年が日本社会から受けている差別と同化の圧力と緊張感から解放される場所として、同胞青年たちと気がねなく時間と場所を分かちあえる貴重な民族的空間である。また、同胞青年が、どこのだれからも教えられなかった民族の言葉や歴史を学ぶ民族学校である。

そのような韓青の「韓国語講座」を妨害する大使館当局の反民族的姿勢に、われわれは驚きを禁じえない。

当局は、日本社会の差別に苦しむ在日同胞青年を見捨てろと言うのか。

在日同胞青年には、民族性が必要ないと言うのか。

それとも、在日同胞が民族的な自覚を持つと困るとでもいうのか。

われわれは、韓青の民族活動をぐろうし、在日同胞青年の民族的な生き方を否定する当局の不当で露骨な干渉に強く抗議する。韓青活動と「韓国語講座」に対する当局の露骨な干渉に強く抗議し、「呼びかけ文」の取り消しと謝罪を要求する。

2012年4月20日

在日韓国青年同盟

～2012年 政治決戦に向けて～

そうだったんだ！ 国政選挙

Vol.7 プレイバック国政選挙⑤

《第17代国会議員選挙（2004年4月15日）》

～弾劾と腐敗に民衆の審判が下る～

● 『議会クーデター』に民衆の怒りが爆発！

2004年3月21日。国会で多数議席を占めるハンナラ党、民主党、自民連は国会本会議を強行開会して、怒号が飛び交うなか、盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領の弾劾追訴案を強引に可決しました。これによって盧武鉉大統領の権限は憲法裁判所の可否判定が出るまで全面停止される事態になったのです。

これに対して国内の市民・社会団体らは激しく反発！弾劾事態を「議会クーデター」と非難し、全国的な弾劾糾弾闘争が始まりました。20日にはソウル市内で「弾劾無効と民主守護のための100万人大会」が開催され、キャンドルを手にした30万人が太平路を埋め尽くしました。これは87年の6月民主抗争以来の大規模集会でした。大会は国内41ヶ所と日本や米国など世界6カ国でも行われ合計50万人が参加するなど、「議会クーデター」勢力への怒りが全民族的に高まりました。



▲キャンドルに埋め尽くされたソウル・太平路

● 与党ウリ党が過半数！進歩政党も院内進出



▲選挙結果に喜ぶソウル市民（4.15 光化門）

こうした情勢のなかで迎えた4月15日の第17代国会議員選挙では、「議会クーデター」勢力に対して民衆による厳しい審判が下されました。

与党・開かれたウリ党が152議席を獲得して単独過半数を確保するなど、選挙前の49議席から100議席以上伸ばす一方、ハンナラ党、民主党、自民連はそれぞれ大幅に議席を減らして大惨敗を余儀なくされました。

特に進歩政党として院内進出が注目された民主労働党は10議席を獲得、政党支持率でも13%を得票し、議席数でも政党支持率でも第3党に大躍進しました。

この総選挙によって民衆は「改革と進歩」を大きく前進させました。反民主と腐敗、冷戦守旧といった古い政治から決別し、新たな政治を熱望したといえるでしょう。またウリ党に過半数を与えたことで、盧武鉉大統領に事実上の再信任をあたえることにもなりました。

歴史の意志を実践する！

連続企画「歴史の意志を実践する！」。

このコーナーでは、裴東湖記念研究所より発刊されている『歴史の意志を実践する－唯物弁証法と民族主義で読む「愛国論」の世界』を基本テキストにしながら、韓青の常任・盟員として、日々、「民族的に生きること」の理論的探求をおこなっている全国の仲間たちの声を紹介しています。

今回は第7回目として、大阪本部のコ・エジャさんが述べてくれました。

コ・エジャ

「知らないことを知っている人」と「知らないことを知らない人」

私は今までは、後者であったと思います。さまざまな学習を通して、いろいろなことを学んできましたが、知ったつもりになっていたことが多く、中身がまったく伴っていませんでした。学習することから逃げ、考えること、これから成長することを諦めてしまっている自分がいました。そうすることで、より自分を苦しめ、これから出会う同胞たちが、本当の意味でこの韓青という場所で解放できるきっかけ、民族的に生きるきっかけを無くしてしまっている、ということに気付けませんでした。

しかし、自分のすぐ横で、命をかけるような思いで真剣に韓青活動を実践し、私を含め、周りにいる同志や後輩たちが民族的に生きるための土台を作ってくれている先輩たちをたくさん見て、胸を打たれました。民族名で生活したり、朝鮮料理を食べたり、言葉や文化を学び、朝鮮人としての誇りを持っている・・・など、一見、在日朝鮮人の鏡に見えがちですし、私も正しい生き方だと思っていました。ですが、考えること、学習することから逃げ、目の前にある現実とも向き合おうとしないということは、人間であることを放棄したのも同然なのだと思います。

人間という動物は考え、話し、聞くことが出来る哺乳類であるのに、そのことさえも忘れ、カタチに惑わされ、無知なまま生きていくというのは、大変勿体無いですし、朝鮮人として民族的に生きるどころか「人」としても幸せに生きていくことは難しいことなのだと思います。

情勢学習や理論学習は難しいものとしてしか捉えられず、ずっと避けて通ってきた道ですが、自分を見つめ直し、もう一度、本部常任委員になり、気持ちを新たに学習すると、面白い程に自分の中に入ってきました。難しいことに変わりはありませんが、分からないことを素直に認めることで、これまでとは格段に情勢や理論学習に対しての向き合い方が変わり、もっと学びたい、吸収したい、と思えるようになりました。これが自主的で主体的に学習することなのだと思います。

このような考えに至ることができたのも、自主・民主・統一運動をぶれずにし続け、「民族的に生きる」ということを教えてくれた韓青のおかげです。この民族でいっぱいにあふれている韓青により多くの同胞青が集っていった欲しいですし、その青年たちに伝えられる存在になりたいです。

まだまだ学もないですし、考えも拙く、民族的に生きられているのかどうかも分かりませんが、以前に比べ人間として前向きに積極的に生きられていると思っています。

これからも日々学習することを心がけ、前を向いて、がんばって、本当の意味で「生きていこう」と思います。



情勢NEWS

＜当局の進歩政治弾圧＞

4月11日におこなわれた第19代総選挙以降、統合進歩党の内部では比例代表を選出する過程で「システム不良」が発覚したことで「不正選挙」の疑惑が浮上し、現在、内部ではその収拾に努めています。

そのような「混乱情勢」に便乗して、検察公安当局は5月21、22日の両日、警察力を動員してソウル市内の統合進歩党の党本部やサーバー管理会社を押収搜索し、党員名簿や比例代表選挙管理システムの入ったサーバーを強制押収しました。またその過程で、警察が党本部を防衛する党員らに暴行を振るい、数人が負傷したほか、先の総選挙で国会議員に当選した朴元錫氏ら党関係者4人を連行するなど、憲政史上類例のない政治弾圧を行っています。

これに対して統合進歩党はもちろんのこと、民主労総や全国公務員労組、全教組、韓国進歩連帯、参与連帯など市民社会団体も一斉に反発、厳しく糾弾しています。

事の発端は、「ライトコリア」というニューライトの幽霊団体が統合進歩党の比例代表選出予備選挙の「不正」を告発し、それを機に、検察公安当局が同党に対して本格的な瓦解策動に乗り出したとの指摘が一般的な見方です。

最高検察庁公安部は22日、統合進歩党に対する捜査を全方位に拡大する方針を示し、事実上、同党への全面的な政治弾圧に乗り出すことを明らかにしました。

これに対し、統合進歩党は即時、最高検察庁と法務部に抗議し、翌23日には「政治検察の進歩党弾圧対策委員会」を構成、共同弁護人団によるあらゆる法的対応を取る一方、キャンドル集会など全党員的な対応や、野党や市民社会団体陣営との共同対応を検討しているそうです。

特に、検察が党員名簿までをまるごと押収したこ



男女大学生9人が、ソウル地検庁舎前で「押収搜索を糾弾する」の横断幕を持って示威行動

とに対して、「選挙人名簿だけで充分なのに、党員名簿まで持っていったことは明白な政治弾圧だ」として、強く反発しています。

イ・ジョンミ統合進歩党革新非常対策委員会スポークスマンは23日、「党員の名簿押収搜索は『不正選挙』を口実に党員の全情報を確保して、進歩政党を弾圧し、党員たちに対する政治査察を日常的に行いうるという点で明白な政治検察の進歩政党弾圧」と明らかにしました。「不正疑惑」は捜査しても、党員名簿をまるごと持っていく必要はないという意味です。

この弾圧情勢に便乗した保守言論やセヌリ党は、さまざまな機会を通じて、統合進歩党へのセッカル（思想）攻撃を展開しています。

セヌリ党は、統合進歩党比例代表当選者の除名案議論を民主統合党に公式提案しようとしてしました。しかし、民主統合党は「政党活動への介入は容認できない」との立場で、「政治的にとても問題がある提案は自制した方が良い」と一蹴されました。

統合進歩党の姜基甲・革新非常対策委員長は、セッカル攻撃に対して、「セヌリ党の誰かのように金の封筒を回したわけでもなく、セックススキャンダルを行ったわけでもなく、論文盗作を犯したわけでもない」と主張しながら、「検察と保守言論の攻撃が意味するのは明らかだ」とし「党の革新を邪魔して、進歩政治の回復を防ぐということであり、野党連帯の一軸を押し倒すことで、政権交代を防ぐという公安機関と保守言論の策動」と指摘しています。

◎サマーキャンプ2012（「第46回韓青全国夏期講習会」）開催！！

早いもので、今年ももう夏の足跡が近づいてきました。韓青では、夏のビッグイベント・サマーキャンプを今年も開催します。概要は以下の通りですが、今年も若さあふれる在日同胞青年の力で、夏の暑さを吹き飛ばす、民族の情熱の熱さ、同胞愛の厚さで、トビっきりのステキな空間を作り上げたいと思います。

参加ご希望の方は、大至急連絡を！

興味ある方も、とりあえずの連絡を！

とにかく、同胞青年は連絡をください！そして、ぜひ同胞青年を紹介してください！



東日本	8 / 4 (土) ~ 8 / 5 (日)	※詳細未定
中日本	7 / 28 (土) ~ 7 / 29 (日)	知多半島
西日本	7 / 27 (金) ~ 7 / 29 (日)	天橋立

各地方の詳細のお問い合わせは、フリーダイヤル（0120-734-101）まで！

◎第19回統一マダン東京 開催！！

日 時 7月22日（日）午後4時30分～8時

場 所 荒川区・旧真土小学校（雨天時は同体育館）

内 容 民族舞踊、テコンド演武、歌、サムルノリなどのステージ（スペシャルゲストは李政美さん）
キムチ、チジミ、マッコリ、韓国焼酎やビールなどの屋台

連絡先 03-3863-6881（統一マダン東京実行委員会）

◎6・15共同宣言発表12周年記念シンポジウム 開催！！

日 時 6月19日（火）午後6時開会（開場は5時30分）

場 所 北とぴあ・ペガサスホール（15階）

交 通 JR王子駅下車北口より徒歩2分／南北線王子駅下車5番出口直結（東京都北区王子 1-11-1）

資料代 1,000円

内 容 徐勝・立命大学特任教授による基調講演など

主 催 6・15共同宣言実践日本地域委員会

編・集・後・記



2000年の6・15共同宣言からはや12年の歳月が流れようとしています。あの時の感動は今でも忘れません。あの宣言から大きく統一情勢も変化し、統一は目の前だと・・・しかし今、李明博政権によって後退させられています。2012年進歩的大統領を必ず勝ち取りましょう（徐）